

# 目 次

## 序

## 第Ⅰ部 通 史 篇

### 第1章 開学への歩み

第1節 学 制 改 革	2
1. 戦前の高等教育	2
2. 戦後の高等教育改革構想	3
3. 学 制 の 改 革	5
4. 新制国立大学設置の経緯	7
第2節 南九州総合大学設立運動	10
1. 熊本県における戦後の高等教育構想	10
2. 南九州総合大学構想と誘致運動の展開	11
3. 学生による誘致運動と募金活動	21
第3節 熊本総合大学の構想と認可申請	23
1. 熊本総合大学設置準備委員会	23
2. 学部、学科・講座数の変遷と「熊本大学設置要項」	28
第4節 開 学 の 準 備	42
1. 教官選考と招聘	42
2. 学 長 選 考	45
3. 学 部 長 選 考	47
4. 運営機関の設置	49
5. 学生部の設置	51
第5節 期成会の募金と資金援助	52
1. 第1期募金状況	52
2. 第2期募金状況と期成会の解散	60

## 第2章 発足期の体制

第1節	大学の発足	66
1.	入学式と開学記念式	66
2.	学則の制定	69
第2節	各学部教育構想の具体化	74
1.	理学部充実問題	74
2.	教育・法文・理学部間の学科統合問題	76
3.	大学の組織と運営	83
4.	施設・設備の状況	92
第3節	学生生活の状況	98
1.	戦後社会と学園生活	98
2.	社会的事件	100
第4節	旧制機関の廃止	104
1.	大学・高等学校の新旧切替	105
2.	白線浪人対策	107
3.	教職員の切替	108
第5節	黒髪・本荘キャンパスの充実	109
1.	一般教養教室の竣工	109
2.	黒髪キャンパス統合問題	109
第6節	熊本大水害とその被害	117
1.	大水害の様子	117
2.	本学の被害	118
3.	水害時の学生の活動と遭難学生慰霊祭	122
4.	阿蘇・白川の総合調査研究所設置の動き	123
第7節	新制大学の運営方式	123
1.	大学管理法問題	123
2.	学長公選	125
3.	学部長公選	126
4.	附属図書館長・病院長・体研所長の公選	126
5.	評議会の設置	128
6.	事務機構と予算	129

## 第3章 拡充期の動向

第1節	専門研究課程の設置	136
-----	-----------	-----

1.	各学部専攻科の設置	136
2.	医学進学課程の設置	137
3.	医学研究科（博士課程）の設置	137
4.	臨時養護学校教員養成課程	138
第2節	研究教育施設設備の充実	139
1.	理学部・教育学部の移転	139
2.	工学部・医学部の設備充実	140
3.	放射性同位元素研究室	141
第3節	附属研究教育機関の設置と充実	141
1.	体質医学研究所	141
2.	附属病院	142
3.	合津臨海実験所	143
4.	教育学部附属農場	143
5.	看護学校	144
6.	助産婦学校	144
第4節	附属図書館の新設	145
第5節	管理運営体制の整備と記念行事	147
1.	学長選挙	147
2.	管理運営体制の整備	149
3.	事務部の動向	150
4.	名誉教授称号の授与	152
5.	記念行事と天皇・皇后ご来学	153
第6節	教育課程の廃止	158
第7節	学園生活の諸相	159
1.	自治会とクラブ活動	159
2.	就職状況	161
3.	学生意識	161

## 第4章 発展期の動向

第1節	管理運営機構の整備と事務局	168
1.	本田学長から柳本学長へ	168
第2節	学科目・講座制の制度化	176
第3節	大学院・専攻科の設置	181
1.	理系大学院（修士課程）の新設	181
2.	教育学専攻科（38年）	183

第4節	教養部の設置	183
1.	教養部設置まで	183
2.	教養部の制度化	187
第5節	各学部の課程及び学科目・講座の充実	189
1.	教員養成新課程の設置	189
2.	各学部の学科目・講座増及び学科編成替え	189
第6節	附属研究教育機関の改組と新設	192
1.	体質医学研究所	192
2.	衛生検査技師学校	193
3.	エックス線技師学校	193
4.	附属養護学校	193
5.	養護教諭養成所の設置	194
6.	中毒研究施設	195
7.	工学研究機器センター	196
第7節	学生部の拡充と学生生活	196
1.	学生部の拡充と学生会館	196
2.	課外活動	197
3.	経済の高度成長と大学の大衆化	198
4.	就職の状況	204
第8節	各学部新本館竣工と黒髪地区の環境整備計画	204
1.	新本館竣工と施設の充実	204
2.	黒髪地区の環境整備計画	207

## 第5章 大学紛争と改革の動き

第1節	1960年代の大学紛争	210
第2節	熊大紛争	210
1.	紛争の発端と経過	210
2.	紛争の激化と封鎖	220
3.	封鎖解除とその後の学内情勢	228
第3節	大学改革への動き	231
1.	大学改革準備委員会の活動	231
2.	熊本大学改革委員会の発足	241

## 第6章 1970年代の熊大

第1節	70年代の管理運営	244
-----	-----------	-----

1.	黒田学長時代	244
2.	岳中学長時代	246
3.	各種委員会の活動	248
第2節	教育・研究課程の充実	254
1.	文系大学院・特殊教育特別専攻科の新設	254
2.	各学部の学科目、講座増	255
3.	公開講座の開設	257
第3節	附属図書館の新築	257
第4節	教育・研究施設の拡充	259
1.	各学部の施設充実	259
2.	体質医学研究所の新築移転	260
3.	付属研究施設の新設と整備	261
4.	附属学校	264
第5節	1970年代の学生部と学生生活	266
1.	食堂の新設	266
2.	学生部の移転充実と保健管理センター	266
3.	学生運動	270
4.	学生の動態	273
第6節	医療短大の創設と法・文分離	278
1.	医療技術短期大学部（医療短大）	278
2.	法・文分離	279
第7章	将来への提言	282

## 第Ⅱ部 部局史篇

### 学部前身校沿革略

1.	熊本医科大学・同附属医学専門学校	290
2.	第五高等学校	293
3.	熊本薬学専門学校	295
4.	熊本工業専門学校	299
5.	熊本師範学校	300
6.	青年師範学校	301

## 第1章 法文学部 付文学部・法学部

第1節	あゆみと現況	304
1.	学部の発足	304
2.	組織の拡充と改組	307
3.	学部の管理と運営	313
4.	学園紛争と学部	316
5.	施設の整備	323
6.	法文学部事務機構	328
7.	「法文学会」、「法文会」と同窓会	329
第2節	学部における研究と教育	333
1.	法学科（法科）	333
2.	哲学科・史学科・文学科（文科）	359
第3節	文学部・法学部の創設	386
1.	経 過	386
2.	文学部の組織と特色	391
3.	法学部の組織と特色	392
4.	事務組織	393

## 第2章 教育学部

第1節	あゆみと現況	402
1.	学部の創設と構想	402
2.	創設期の学部の教育体制	407
3.	学部の充実と組織	422
4.	黒髪地区への統合	437
5.	学部の新体制発足と充実	454
6.	新館竣工と施設	465
7.	新体制下の学部運営	470
8.	履修内容の強化	472
9.	学生の動向	475
10.	構想実現と現況	480
第2節	学部における研究	492
1.	国 語 科	492
2.	社 会 科	494
3.	数 学 科	496

4. 理 科	497
5. 音 楽 科	498
6. 美 術 科	499
7. 保 健 体 育 科	500
8. 特 別 看 護 科	502
9. 技 術 科	503
10. 家 庭 科	504
11. 外 国 語 科	505
12. 特殊教育科（養護学校教員養成課程）	507
13. 養護教諭特別科	507
14. 教 育 学 科	508
15. 心 理 学 科	509
16. 養 護 教 諭 科	511
17. 学部の共同研究会	512
第3節 将来の構想	513
第4節 附属学校のあゆみ	514
1. 附属小学校	517
2. 附属中学校	534
3. 附属幼稚園	556
4. 附属養護学校	568

### 第3章 理 学 部

第1節 あゆみと現況	584
1. 学部の開設	584
2. 発足後の推移	584
3. キャンパスの移転	586
4. 学部教官及び事務官の異動	591
5. 学部学生、卒業生及び同窓会	596
6. 学園紛争と学部運営の再検討	598
7. 学部の管理運営	601
8. 専攻科及び大学院の設置	602
9. 附属研究施設の設置	605
第2節 学科のあゆみと研究活動	606
1. 数 学 科	606
2. 物 理 学 科	614
3. 化 学 科	623

4. 地 学 科	634
5. 生 物 学 科	646
6. 附属合津臨海実験所	654
第3節 将来の構想	657

## 第4章 医 学 部

第1節 あゆみと現況	660
1. 新制医学部の発足と発展	660
2. 教育・研究の組織	669
3. 水俣病の研究	681
4. 学生とインターン制度の変遷	684
第2節 大学院のあゆみ	685
1. 大学院の発足と体制	685
2. 研究科の改革と現状	689
第3節 学部・大学院における研究と教育	697
1. 解剖学第一講座	697
2. 解剖学第二講座	699
3. 解剖学第三講座	700
4. 生理学第一講座	702
5. 生理学第二講座	704
6. 生化学第一講座	705
7. 生化学第二講座	706
8. 薬理学第一講座	707
9. 薬理学第二講座	708
10. 病理学第一講座	709
11. 病理学第二講座	710
12. 微生物学講座	712
13. 衛生学講座	713
14. 公衆衛生学講座	714
15. 寄生虫病学講座	716
16. 法医学講座	717
17. 内科学第一講座	718
18. 内科学第二講座	721
19. 内科学第三講座	722
20. 神経精神医学講座	724
21. 小児科学講座	726



22.	外科学第一講座	726
23.	外科学第二講座	728
24.	脳神経外科学講座	729
25.	整形外科学講座	730
26.	皮膚科学講座	732
27.	泌尿器科学講座	733
28.	眼科学講座	734
29.	耳鼻咽喉科学講座	735
30.	放射線医学講座	737
31.	産婦人科学講座	739
32.	麻酔学講座	740
33.	中毒研究施設生化学部門	742
34.	中毒研究施設病態生理学部門	743
35.	中毒研究施設神経中毒学部門	744
36.	免疫医学研究施設免疫病理学部門	744
第4節	将来の構想	745
1.	組織	745
2.	施設	746
第5節	附属学校のあゆみ	747
1.	附属看護学校	747
2.	附属助産婦学校	751
3.	附属診療放射線技師学校	754
4.	附属臨床検査技師学校	756

## 第5章 薬学 部

第1節	あゆみと現況	760
1.	前身校のあゆみ	760
2.	大学の発足とそのあゆみ	763
3.	講座の増設と現況	787
4.	大学院研究科の開設と現況	795
5.	附属研究施設の状況	801
第2節	学部・大学院における研究	811
1.	薬化学講座	811
2.	薬品分析学講座	813
3.	生薬化学講座	815

4.	生薬学講座	816
5.	衛生化学講座	819
6.	薬剤学講座	822
7.	薬物学講座	825
8.	生化学講座	828
9.	薬品物理化学講座	830
10.	薬品製造化学講座	831
11.	薬品製造工学講座	835
12.	放射薬品学講座	837
13.	生物薬品製造学講座	838
14.	製剤学講座	840
第3節	将来の構想	841

## 第6章 工学部

第1節	あゆみと現況	846
1.	学部発足に至るまでの沿革	846
2.	学部の発足とその後の経緯	847
3.	大水害と学園紛争	850
4.	熊本大学工業会	852
5.	学部の職員と学生	853
6.	学科の編成	856
7.	施設設備の概況	857
第2節	学科のあゆみと研究活動	860
1.	土木工学科	860
2.	建築学科	863
3.	環境建設工学科	867
4.	資源開発工学科	871
5.	金属工学科	876
6.	機械系学科（機械工学科，生産機械工学科）	880
7.	電気系学科（電気工学科，電子工学科，情報工学科）	888
8.	化学系学科（工業化学科，合成化学科）	897
9.	共通講座	904
第3節	附属施設	909
1.	附属工学研究機器センター	909
2.	附属衝撃エネルギー実験所	910

3.	附属中央工場	911
4.	工学部研究資料館	913
5.	黒髪地区放射性同位元素総合研究室	914
6.	工学部アイソトープ施設	915
第4節	将来の構想	917

## 第7章 教 養 部

第1節	あゆみと現況	920
1.	教養部設置の経緯	920
2.	組織と運営	944
3.	カリキュラム	956
4.	学生の動向	969
第2節	教養部における研究	976
1.	人文分野	976
2.	社会分野	978
3.	自然分野	980
4.	総合分野	984
5.	外国語	985
6.	保健体育	989
第3節	将来の構想	990

## 第8章 体質医学研究所

第1節	あゆみと現況	992
1.	沿革	992
2.	現況	1006
第2節	各部門のあゆみと研究活動	1008
1.	形態学部門	1008
2.	生理学部門	1011
3.	病理学部門	1018
4.	成人体質学部門	1023
5.	小児体質学部門	1027
6.	気質学部門	1029
第3節	将来の構想	1033

## 第9章 医学部附属病院

第1節	あゆみと現況	1036
1.	前身病院の沿革	1036
2.	医学部附属病院の沿革	1037
3.	附属病院の現状と将来計画	1040
第2節	各部門の活動	1042
1.	歯科口腔外科	1042
2.	中央検査部	1043
3.	中央放射線部	1043
4.	中央手術部	1044
5.	集中治療部, 救急部	1045
6.	中央材料部	1046
7.	分娩部	1047
8.	理学療法部	1047
9.	病理部	1048
10.	薬剤部	1048
11.	看護部	1049

## 第10章 養護教諭養成所

第1節	あゆみと現況	1060
1.	沿革の概要	1060
2.	養成所の組織	1070
3.	教育課程	1076
4.	学生の動向	1082
5.	新校舎の施設・設備	1087
6.	卒業生	1090
7.	新体制への移行	1093
第2節	養成所の研究と活動	1097

## 第11章 事務局

第1節	庶務部関係	1102
1.	事務組織の変遷	1102
2.	事務局歴代役職者一覧	1111

3.	熊本大学教職員定員の推移	1123
4.	熊本大学諸規則30年概略史（年表）	1126
第2節	経理部関係	1130
1.	財 政	1130
第3節	施設部関係	1137
1.	施設の変遷	1137

## 第12章 学生部・保健管理センター

第1節	学生部のあゆみと現況	1142
1.	組織と事務分掌	1142
2.	入学生及び卒業生	1149
3.	学生の国際交流	1163
4.	学生の補導機構	1165
5.	学生の課外活動とその施設	1166
6.	学 生 運 動	1172
7.	学寮・学生会館	1177
8.	学生の奨学援護	1185
9.	就職斡旋と学生アルバイト	1187
10.	学生歌・応援歌	1187
第2節	保健管理センター	1190
1.	設置までの経緯	1190
2.	現 況	1191

## 第13章 附属図書館

第1節	あゆみと現況	1196
1.	図書館の発足	1196
2.	機 構 の 変 遷	1197
3.	施設・設備の変遷	1198
4.	本館の新営	1202
5.	経 理 状 況	1205
6.	業 務 の 変 遷	1206
第2節	図書館資料	1209
1.	蔵書の状況	1209
2.	特 殊 文 庫	1212
3.	図書館資料の運用	1214

第3節 将来への展望	1216
------------	------

## 第14章 医療技術短期大学部

第1節 あゆみと現況	1222
1. 創設までの経緯	1222
2. 開校後のあゆみ	1226
3. 管理と運営	1228
第2節 学科の組織と研究	1229
第3節 将来の構想	1234

## 略年表・付表

熊本大学略年表	1237
熊本大学組織図	1255
熊本大学役職一覧	1257
熊本大学全学各種委員会一覧	1259
熊本大学評議員一覧	1261
熊本大学名誉教授一覧	1263

## あ と が き